

2025/12/1 (月)

朝の礼拝

聖書 イザヤ書 8 章 23 節 (旧約聖書 1058 頁)

しかし、抑圧された地から闇は消える。
先に、ゼブルンの地とナフタリの地は
辱しめられたが
後には、海沿いの道、ヨルダン川の向こう
異邦人のガリラヤに栄光が与えられる。

辺境の夜明け

先にと、後にとありました。過去と未来、時代の流れを言っています。以前はゼブルン、ナフタリと呼ばれていた、今は海沿いの道、ヨルダン川という川の向こう、西側と呼ばれている。そこは大国に侵略され、占領地となりガリラヤと名を変えられていると言っています。ガリラヤとは「辺境」という意味です。抑圧の象徴です。

現在も世界各地の争いは辺境で起きています。ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ、インドとパキスタン、アメリカとメキシコ、北朝鮮と韓国、中国と台湾、そして日本も傍観者ではられません。今も聖書の時代と同じように大国が小さな国を抑圧し、闇の中に閉じ込めています。

今日読まれたイザヤ書は大国の侵略、そして滅亡と捕囚による絶望の中で語られた神様の言葉です。しかしイザヤは「主は国々の間を裁き、多くの民のために判決を下される。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦いを学ぶことはない」(同書 2:4) と神様の審判と平和を語るのです。

今もイスラエルの人々は「シャローム（平和がありますように）」と挨拶を交わします。痛烈な皮肉でしょうか、過去のなごりでしょうか、本当に平和が実現するのか、その審判を下すのはイザヤの言うように神様ご自身です。アドベントは「やって来る」という意味です。最も深い闇夜にこの世を照らす光として救い主が来られます。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたは深い闇に覆われた時に、吹けば飛ぶようなベツレヘムの一寒村の飼い葉桶に人知れず生まれました。今も、辺境の地で平和を待ち望む人々の祈りは絶えることはありません。どうか愚かにも分かれ争う人々に悔い改めの心を与え、嘆き悲しむ人々の祈りを省み、御心ならばひと時でも早く平和の時を与えてください。この世の光として、平和の君として来られたあなたを待ち望み祈ります。今日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン